

日本漆喰協会

第2回作品賞

平成19年10月



作品名	相生の家 K邸
作品の所在地	群馬県桐生市相生町5丁目272-5
竣工	2006年7月
設計者	ソラマデザイン建築設計事務所 小倉俊之
施工者	株式会社 カシワ建設 代表 小笠原和人
左官	野村左官店 野村裕司

<講評> 内装すべて（室内壁・天井等）の仕上げに、漆喰を採用した作品。身体の弱い母親を気遣う施主が、内装はすべて健康素材でとの要望により実現した。家族そろって、「空気がきれいで、心地よい」と漆喰壁を絶賛している。日本の伝統ある漆喰壁が現代の建物にも最適であり、漆喰が驚くほど自然で、人にとってやさしい空間であることを見事に体現した、漆喰の可能性を実感できる優れた作品である。



作品名	伊豆文邸（修復保存）
作品の所在地	静岡県賀茂郡松崎町松崎250-1
竣工	2007年3月
設計者	—
施工者	松崎蔵づくり隊
左官	同上

<講評> 明治43年建築の建物を、住民の手作りで再生した、意義のある作品である。鰻絵の町・松崎には200棟を越える海鼠壁の建物があるが、老朽化や家の建て替えにより、その数は年々減少。こうした中、地域資源である海鼠壁の価値を再認識し、保存活動を展開しようと結成されたのが「松崎蔵づくり隊」。メンバーは会社員や公務員など一般住民である。彼らが左官の指導を受け、古来の方法で修復させたのが、伊豆文邸。住民の町や地域資源に対する熱い思いが実感できる作品である。

3



作品名	宇都宮城址公園 清明台 富士見櫓 土塀
作品の所在地	栃木県宇都宮市本丸町3, 516-1
竣工	2007年3月
設計者	有限会社 建築文化研究所 代表取締役 八木清勝
施工者	岩村建設 株式会社 代表取締役 永井泰幸
左官	株式会社 町田建塗工業 代表取締役 町田卓大

＜講評＞ 戊辰戦争（1868～1869）で焼失した宇都宮城を、史実に忠実に、2つの櫓と櫓をつなぐ160mに及ぶ土塀を復元し、宇都宮市のシンボルとして蘇らせた。清明台、富士見台の2つの櫓の内外壁および160mの土塀はすべて漆喰が塗られ、その工法・材料も史実にしたが、伝統的な漆喰材料と工法で見事に再現した。160mもの長さの漆喰土塀は、見る者を圧倒し、歴史ある宇都宮市のシンボルにふさわしい、風格ある仕上がりになっている。

4



作品名	旧古河鋳業若松ビル（改修）
作品の所在地	福岡県北九州市本町1丁目11-19
竣工	2004年8月
設計者	株式会社 洋建築計画事務所 城水悦子
施工者	株式会社 大林組 九州支店 常務執行役員支店長 内田弘通
左官	有限会社 建床 庄司英二

＜講評＞ この建築は、北九州に多数残る近代化産業遺産のひとつ。周辺の建物が解体される中、市民の熱烈な要望で改修されて生き残り、建築文化を継承する意義はきわめて高い。内装の漆喰壁や漆喰による蛇腹、レリーフもその当時の工法にしたがい見事に再現されている。再生を目的とする今回の改修は、伝統的建築文化の継承にとどまらず、漆喰においても、イタリア磨きや漆喰セラミックなど新しい試みがなされている点も、評価できる。



作品名	新宿高島屋タイムズスクウェア 「イタリアンレストランCANOVIETTA」
作品の所在地	東京都新宿区 高島屋13F
竣工	2007年3月
設計者	株式会社 乃村工芸社A.N.D
施工者	株式会社 乃村工芸社 商環境カンパニー第一事業本部
左官	西澤工業 株式会社

＜講評＞ 新宿高島屋タイムズスクウェアにある「イタリアンレストラン CANOVIETTA」の店舗外周に、漆喰の特殊仕上げが全面に施されている。オフホワイトの漆喰磨きで全面仕上げたあと、型紙を利用し白漆喰で立体模様をつくるという、デザインアートというべき創造性豊かな作品。漆喰が上質なデザインに応えられる素材であることを示した意義は大きい。左官のクリエイティブな感性とそれを裏打ちする高度な技術が、素晴らしい。



作品名	高山市図書館煥章館
作品の所在地	岐阜県高山市馬場町2丁目115
竣工	2004年1月
設計者	脇本・三計・小林特定設計・監理企業体 代表構成員 脇本設計 脇本敏雄
施工者	飛騨・古橋・二反田特定建設工事 共同企業体 代表 飛騨建設株式会社
左官	職人社秀平組 有限会社 代表取締役 挾土秀平

＜講評＞ 市民が集い、活用する市民図書館 — これを明治往時の建築に復元、ふんだんに漆喰を採用している意義は大きい。ライトアップに照らされた当作品は、高山市のシンボルと言うべき目を見張るばかりの美しさである。木造近代建築の威厳さを兼ね備えたその美しさに、漆喰の白壁は不可欠な素材であると実感できる。明治時代の美意識と気品の高さを彷彿させる、素晴らしい漆喰建築である。

7



作品名	千葉県美浜文化ホール・ 保健福祉センター
作品の 所在地	千葉県千葉市美浜区真砂5丁目15-1
竣工	2007年3月
設計者	小泉アトリエ・C+A村井建築設計 共同企業体 小泉雅生
施工者	奥村・旭建設共同企業体 谷 正行
左官	小松左官工業所 小松七郎

＜講評＞ 音楽ホールの内壁・天井全面に、漆喰を採用している、きわめて意欲的な作品である。これほどの面積を漆喰でくるむ音楽ホールは、他に例を見ないのであろう。音楽ホールが求める反響度を漆喰壁で十分満たした、その意義も大きい。また、美観的にも500㎡前後ある天井・壁を、1本も目地をとらずモノリシックに仕上げたうえ、壁全体に丸みをもたせた左官の技術力は、特筆すべき匠の技として評価される。

8



作品名	チャンパリン 強巴林
作品の 所在地	愛知県名古屋守山区吉根階子田 1, 361
竣工	2004年8月
設計者	伊藤平左エ門建築事務所 名古屋事務所 望月義伸
施工者	株式会社 長瀬組 代表取締役 長瀬史典
左官	株式会社 岡田建工 代表取締役社長 岡田明廣

＜講評＞ 日本はじめてのチベット寺院である。当寺院の建築にたずさわる設計者・施工者・左官が、チベットに出向き、チベット寺院建築を実際に見学したうえで、壁は自然の恵みを受けた漆喰と土による淡い土色のハンダを採用することにした。極彩色のチベット彫刻にハンダなで切り仕上げのやわらかな表情、そのバランス感がいい。ハンダが醸し出す和の雰囲気、信仰色の強いチベットの色彩をやさしく包み込む、そんな斬新な作品である。

※ハンダとは、消石灰と土を混ぜ合わせたものを言う。



作品名	土佐 水切り瓦と海鼠壁の在る蔵 (改修)
作品の所在地	高知県室戸市吉良川町
竣工	2007年4月
設計者	畠中二級建築士事務所 畠中 亮
施工者	畠中建築 畠中 亮
左官	土佐左官工房 有岡久喜

<講評> 土佐漆喰の真骨頂とも言える「水切り瓦」と「土佐漆喰の磨き」をふんだんに採用した、まさに土佐漆喰の家である。屋根瓦の漆喰仕上げや、平瓦による海鼠壁を含め、土佐漆喰の伝統を受け継いだ職人の技と心意気が感じられる作品。古くからある旧家の土佐漆喰を手直しする一方、隣接して土佐漆喰の蔵を新築、古の土佐漆喰と新しく生まれた土佐漆喰の、時代を越えた普遍的美しさが、土佐漆喰の奥深さを伝える。



作品名	日本の唱教団 本堂 客殿 庫裏
作品の所在地	兵庫県赤穂郡上郡町岩木甲634
竣工	2006年8月
設計者	株式会社 内藤設計 内藤正克
施工者	富嶋建設
左官	品川組 品川房男

<講評> 美しい漆喰の白壁、圧巻である。本堂・客殿・庫裏によって構成されている、日本の伝統的木造建築には白壁がよく似合う、それをつくづく実感させてくれる。荒壁下地の漆喰押さえ、壁厚も40~260mmと壁面によって条件が異なり、左官の目・技術が問われる難工事と推測されるが、それを一切感じさせない。当工事現場より、美しい漆喰押さえのための「漆喰押さえ罫」が開発されたと聞く。それも難工事を乗り越えた職人による、知恵と経験の所産である。

11



作品名	白山通りのいえ
作品の所在地	東京都文京区白山4丁目35-9
竣工	2006年10月
設計者	有限会社 薩田建築スタジオ 薩田英男 鹿野都市建築計画事務所 鹿野正樹
施工者	—
左官	株式会社 横田工業 横田光弘 阪神ラス工業 株式会社 黒川忠勲

＜講評＞ 家を建てるにあたり、土地を掘り下げると良質の粘土が見つかった。その粘土と漆喰で、内外壁を彩ってみたい、そんな建築家の創意によって生み出されたのが、この作品。東京は白山通り沿い、都会に土と漆喰のビルがある、これだけでも意義がある。その上、この作品は、鉄筋コンクリートのビル外壁全面に、土と漆喰による塗り壁で外断熱工法を採用するという、斬新な工法を採用していることも十分評価したい。

12



作品名	村井邸・胡陽居
作品の所在地	茨城県鹿嶋市宮中8丁目7-10
竣工	2007年1月
設計者	エアサイクル産業 株式会社 内藤敬介・齋藤元彦
施工者	エアサイクル産業 株式会社
左官	総合建築 植田 植田俊彦

＜講評＞ 床や造作材、建具、家具等に使用した木質と、内装全面に塗られた漆喰の質感が見事にマッチし、品のある心地よさを醸し出している。職人の技術を主張し過ぎることなく、内装のほとんどすべてを漆喰で仕上げているながら、他の部材との調和が十分とれている。これは、住宅における漆喰使用の理想形と言ってもよいだろう。部屋によって微妙に漆喰のタッチや仕上げ方を変えている点も、生活空間に配慮した設計と左官の高い感性が見てとれる。

過去5年以内の国内の漆喰やドロマイト
プラスターを使用して創作されたものの中
から日本の伝統的な不燃建築仕上げ材であ
る漆喰の普及、技術の向上を図り、安全で
環境と人に優しい漆喰工法による建築文化
を後世に継承して行くための一助となるこ
と、併せて漆喰関連業界の発展に寄与す
ることを目的とし、社会的、文化的見地から
特に優秀と認められる漆喰を使用した作品
の表彰を行う。



日本漆喰協会

事務局 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-21 新虎ノ門実業会館9F
TEL 03-3504-1601 FAX 03-3593-1604